

平成21年 3 月10日発行

発行：学校法人皇學館
編集：法人本部総務課

TEL0596・22・6308
E-mail: soumu@kogakkan-u.ac.jp

皇學館学園報

第19号

■伊勢学舎

[法人本部・大学院・専攻科・文学部・教育学部]
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704番地
TEL0596・22・0201(代) FAX0596・27・1704

■名張学舎

[大学院・社会福祉学部]
〒518-0498 三重県名張市春日丘7番町1番地
TEL0595・61・3351(代) FAX0595・61・3350

●インターネットホームページ

http://www.kogakkan-u.ac.jp



平成23年4月 名張キャンパスを 伊勢に統合

一月二十七日に開催された臨時理事会・同評議員会において、名張キャンパスを平成二十三年四月より伊勢キャンパスに統合することが決定した。社会福祉学部は平成二十一年四月に入学する学生の選抜を最後に募集を停止する。なお、同学部の在学生および今年度入学生のカリキュラムに変更はなく、取得できる資格などもこれまで通りの内容が維持される。

●カリキュラム等は維持
キャンパス統合に伴うカリキュラム等の変更はなく、現在社会福祉学部在籍する学生および平成二十

●背景に「福祉離れの波」
平成十年に開設した社会福祉学部。以来、平成十八年度まで定員を超える学生が入学し、地域福祉の担い手となる多くの人材を輩出してきた。しかし、全国的な福祉系大学の志願者離れや少子化の波を受け、同学部でも平成十九年頃より受験者数が減少。経営上の判断から名張キャンパスを伊勢キャンパスに統合することを決定した。

平成二十二年に新学部を開設予定

●背景に「福祉離れの波」
平成十年に開設した社会福祉学部。以来、平成十八年度まで定員を超える学生が入学し、地域福祉の担い手となる多くの人材を輩出してきた。しかし、全国的な福祉系大学の志願者離れや少子化の波を受け、同学部でも平成十九年頃より受験者数が減少。経営上の判断から名張キャンパスを伊勢キャンパスに統合することを決定した。

キャンパス統合に伴う教育面(カリキュラム、資格取得等)の支障は全くありません。但し、平成23年4月の統合時に移転が必要な社会福祉学部3年次生(平成21年度入学生)、4年次生(平成20年度入学生)の約200名については次のような修学支援を行います。

- 1 通学定期等を利用して名張キャンパスに通学する学生で、伊勢キャンパスへ通学する場合に、通学費が増額する学生には、その増額分を支給します。
- 2 名張へ通学可能でも、伊勢の場合は通学が難しくなる学生は、伊勢地区への下宿費用(敷金、礼金、毎月の部屋代)を支給します。
- 3 名張で下宿している学生が、伊勢に移転する場合は伊勢地区への移転費用および下宿費用(既契約の解約費用、敷金、礼金、毎月の部屋代(差額が生じた場合の差額分))を、卒業時まで大学で負担いたします。

移転統合にかかわる
社会福祉学部生への
主な修学支援について



第63回

名岐駅伝

初出場で二十位と健闘

二月一日に行われた第六十三回名岐駅伝競走大会に本学の駅伝競走部が創部一年目にして初出場。三十三チーム中、二十位と健闘を見せた。本学の前身である神宮皇學館第六代館長・武田千代三郎氏は「駅伝」の名付け親でもある。そのゆかりの深さに思いを馳せ、歴史と誇りが詰まった「へたすき」をメンバー一人一人がつないだ。

「名門復活」をかけて創部

駅伝の歴史をたどると、名称の由来に本学が関わっている。一九一七年に日本で最初の駅伝が開催されたとき、神宮皇學館第六代館長で大日本体育協会副会長を務めていた武田千代三郎氏が奈良時代の通信・交通網「駅制」「伝馬制」にヒントを得て提案したといわれて

シード獲得まで五十九秒

現在、山内優樹監督のもと、三年生一人、二年

勝経験もある。そうした経緯から「名門復活」を求める声が高まり、平成十九年四月に陸上競技部内に駅伝チームが誕生。そして昨年四月、ついにチームから部に昇格するかたちで独立した。

二月に行われた東海学生駅伝対校選手権大会で好成績を収めたため、規定により名岐駅伝への出場が決定。創部一年目にして大舞台で実力を試す機会を得た。

当初、「経験を積むこと」が何より大切。トヨタ自動車などの実業団や強豪チームを間近に見ることが学ぶものがある」とあって目標順位を設定し



清々しい表情の選手たち。山内監督(右端)はチーム力の底上げを図りたいと意気込む。

一区は十一位と快走

なかつた山内監督。だが、結果三十三チーム中、二十位と大健闘。トップのタイムから十五分以内

個人では一年生の小野郁文君が最長区間だった一区十二・四キロを十一位と快走。小野君は「実際に走ったことで目標が具体的にになった。次はシード権を獲得、個人では区間一桁を狙いたい」と来年に向けての意気込みを語った。

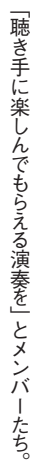
山内監督は「チーム力の底上げが必要」と話し、当初、「経験を積むこと」が何より大切。トヨタ自動車などの実業団や強豪チームを間近に見ることが学ぶものがある」とあって目標順位を設定し



名工大や四日市大に勝ちたい、と闘志を燃やす小野君。

実ともに実力校として駅伝の歴史に名を刻めるように――新たな伝統が始まるうとしている。

初の東海大会出場◆皇學館高校 吹奏楽部



二月十五日、静岡県で東海大会が開かれ、皇學館高校吹奏楽の金管八重奏が初出場した。三月二十九日には伊勢市観光文化会館において第一回となる定期演奏会も控えており、部員たちは猛練習に励んでいる。

“元気な演奏”から
“深みのある演奏”へ

ワークの良さが自然とハ
ーモニリーにつながったと
思います」と満面の笑顔。
コンテストに向けては大
会で披露する曲「テレブ
ー 部員全員が以前より
考えて行動するようにな
りましたね」と話すのは
前川幸生顧問だ。東海大
会への初出場、定期演奏
会に。創部もない頃の元

日本一の
チームワーク
日本一の集中心
力

張るほどの著しい力の伸び。その背景に、部員たちの精神面の成長が窺え

は過ぎ、思慮深さをもとなつた新たなステージを迎えようとしている。

全員で
知恵を出す

音楽教室に

話についても「ミーティ
ングを開けとわたしが指
導したわけじゃありませ
ん」

を響かせてくれるのか、
楽しみた。

月二十九日。どんな音色

「ここまでやってこられたのは家族と先生のおかげです」と謙虚に語る中川君。



皇學館高校柔道部三年 一日から二月一日にかけてベルギーで開かれた柔

柔道の中川君が日本代表に

ベルギー国際大会

道の国際大会に日本代表（七十三キ口級）として出場した。

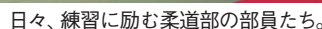
では個人戦で三位に入賞。そつした実績を認められての日本代表入りに、「やっぱり嬉しいです」と相手を崩す中川君。

は「彼はとにかく研究熱心。合宿中など他校の先生や選手にわからないところがあれば聞きにくい。強くなりたい」とい

う思いが人一倍ある
んでしょね」と期
待を寄せる。

大会では惜しくも

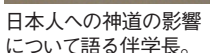
一回戦で敗れたものの、初の海外試合は貴重な体験となった様子。「もつと練習して、一本をとれる大技を自分のものにしていきたい」と中川君は話す。大会終了後はバリ合宿、フランス国際大会の視察など将来を見据え、経験値も着実に積み上げている。すで



第六十二回 式年遷宮記念講演会 開幕

「神宮には日本古来の信仰が凝縮」

第一回を伴学長が講演◆鳥取



鳥取市の鳥取県立県民文化会館で、かねてより本学が主催し全国で展開してきた第六十二回式年遷宮記念講演会（今回は霞会館および鳥取市歴史博物館と共催）が二月八・十五・二十二日の三回の日程で開幕した。同歴史博物館では一参宮・遷宮・伊勢神宮―鳥取と伊勢のつながり―と題し、重要文化財に指定されている遷宮に際してのご神宝やご装束、また鳥取の人々の参宮を物語る史料等を紹介する新春特別展を元日より開いており、その関連行事として実施されたものである。



日本人への神道の影響について語る伴学長。

料等を紹介する新春特別
実施されたものである。

第一回目となつた二月

200名の聴衆が詰め掛けた会場。うなずいたり熱心にメモをとるなど、伴学長の講演に聴き入る姿が見られた。

八日は伴五十嗣郎学長が『伊勢の神宮と日本人』との演題で講演し、『魏志倭人伝』や『日本書紀』等の史料を示しながら、太陽神である天照大神を女神と仰ぐのは、日本人の独自性に富む信仰形態であるとして紹介し、神道は日本人の自然観や倫理観の形成に多大な影響を与えてきたと解説した。

さらに、古来日本人の信仰のあり方等について、「神宮には他民族には

されていた降雪もなく、会場には約二百名の聴衆が詰めかけた。聴講者の一人は、「鳥取における伊勢の御師・白鬚大夫には昔から馴染みがあったが、今回の展示と講演からその関係を深く理解することができた。神宮の遷宮は、伊勢の地を中心に伝統技術を保存継承する人々と各地の人々の崇敬の念によって支えられているのだと思う」と感想を述べていた。

学園ニュース

森下隆生伊勢市市長が講演

市長トーク in キャンパス◆伊勢学舎



一月十六日に伊勢学舎記念講堂において、本学と伊勢市との連携協力に関する協定に基づくスターティングプログラム「市長トーク in キャンパス」が行われ、森下隆生伊勢市市長が講演した。この講演は、一年次必修科目「伊勢学」の一環でもあり、約六百名の学生を前に演壇に立った森下市長は「これからの伊勢、お伊勢さんの鎮座するまち」とのテーマでパワーポイントを用いながら熱弁。若い人々が主人公となるまちづくりを、と期待を込めて語った。

祭典やイベントなどへの積極的な参加を訴え

一月十六日、「市長トーク in キャンパス」と題した講演が伊勢学舎記念講堂で開かれた。テーマは「これからの伊勢、お伊勢さんの鎮座するまち」。二伊勢道路の建設など交



「大学とまちが協力して、お互い伸びていきましょう」と語る森下市長。

通インフラをはじめホテルや観光施設の整備を進めている現状を説明した。また、レジ袋有料化などの環境対策をいち早く始めた実績に触れ、今後の市政の方針と特徴的な取り組みについて話した。最後に「市のイベントに積極的に参加するなど伊勢を舞台に楽しんでください。それが伊勢のまちづくりにつながります」と話した。

「お伊勢さんのまち」について活性化を

聴講した神道学科一年生の梅北友里恵さんは、昨秋の初穂曳行事で偶然森下市長から話し掛けられたエピソードを挙げ、「鹿児島出身であること話をすると『どっぶり伊勢に浸かってください』とお声を掛けていただいた。町や学校の行事に市長自ら率先して参加しているのを見て、まちづくりへの意気込みを感じた」と話した。



「市長の熱意を感じた」と話す梅北さん(左)と森田さん。

皇學館大学 女子軟式野球部

このチームで日本一に 秋季リーグ戦優勝

大倉投手がノーヒットノーラン達成

本学女子軟式野球部が昨年行われた第十三回東海地区大学女子軟式野球秋季リーグ戦で初優勝。全国二位の強豪・中京女子大学を破る快挙を成し遂げた。立役者はエースの大倉三佳投手。決勝戦ではノーヒットノーランを達成。優秀選手賞も受賞した力の持ち主である。



第22回全日本大学女子野球選手権大会ではベスト8に。また、今後期待できる1チームに贈られる富山ベースボールクラブ賞も受賞した。

「野球が好き」という原点に戻る

「彼女の野球に対する情熱が、みんなの心を目覚めさせたんだ」と思いますが、と語るのは上野晃二監督だ。創部は平成六年。その頃は「厳しさは足りない。ただ楽しめれば」という雰囲気だった。内心歯がゆい思いを抱えつつ、無理やり練習させても意味はないと長い目で見守ってきた上野監督。そこへ現れたのが大倉さんだった。

めざすのは全国制覇

現在、部員は十二名。硬式で最高球速百二十キロを投げる大倉さんの豪速球と飛び抜けたチームワークの良さ、全員が四番を名乗れる強力打線が武器だ。中には陸上やバスケ、部員は十二名。向組もいる。だが、みんながコーチとなって教え合い、授業の合間も筋トレするなど地道な努力を重ねた結果、数々の大会で優勝や準優勝をさらう常勝チームとなってきた。次に狙うのは八月に開催される全日本女子野球選手権大会。めざすのはもちろん優勝だ。このチームで日本一に「彼女たちの願いがかなう日は、遠くないはずだ。」



「いい体験ができた」と口をそろえる関口さん(左)と山田さん。

宇治橋渡り納め式に皇大生が参加

伊勢市民ら約八千八百人とともに

民らが中心となって結成した「宇治橋架け替え奉祝委員会」(会長・森下隆生伊勢市長)の呼びかけによるもの。本学からは一月十六日の「市長トーク in キャンパス」の中で森下市長が参加を呼びかけたこともあり十数名の学生が参加。市民ら約八千八百人とともに二十年の役目を終えた橋との名残を惜しんだ。当日午後四時、宇治橋前には奉曳団などの法被に身を包んだ伊勢市民をはじめ、近郊や県外からも大勢の人々が集まった。森下市長と鷹司尚武神宮大宮司による挨拶の後、一団は肅々と宇治橋を渡り神域内の正宮と荒祭宮を参拝。橋を渡り納めた後で、橋の平安を見守るといわれる神域外の饗土橋姫神社へ参拝して終了した。参道では奉祝委員会のボランティアスタッフにより、遷宮用材の残材で作られた木札



平成生まれの宇治橋の渡り納めに大勢の人々がかけつけ、参拝者の行列は約20分以上も続いた。

「渡納証」が配布され、参加者は大事そうに持ち帰っていた。神道学科一年生の関口諒子さんは「渡り納めをしたことで、今日この橋が最後だ」という実感がわき、少し寂しくなった。二十年という自分の年齢よりも長い期間、大勢の人が渡ってきた重みを感じた」と感慨深げ。同学科一年生の山田拓也さんは「せっかくなので伊勢にいたので目にしておきたかった。渡っているときは清らかでありたい気持ちになった。今の橋の

役目は今日で最後だが、ご遷宮の行事の一環として、また新しい橋になり過去、現在、未来へと繋がっていくのを感じた」と話した。

本学の学生にとって、地域ならではの行事に参加したことは、伊勢で学生生活を過ごす上で貴重な体験になったようだ。



上/父親のように慕われている上野監督。下/ベストコンピの大倉さん(写真右)と西村さん。



次号(第20号・五月中旬発行予定)より皇學館学園報が八頁・隔月発行となり、紙面が大きく変わります。本紙ではより充実した紙面づくりに向け鋭意努力して参りますので、ご期待ください。

お知らせ 次号から学園報の紙面が変わります